

手，このすばらしきセンサ

兵庫センター
(兵庫職業能力開発促進センター)

頃末 寛

2008年の世相を表す「漢字一文字」に「変」という字が選ばれたことは、近年になって日本人が誇りとしてきた正直さやモラルの低下を意味しているのか、何とも標のない世の中になったと感じざるを得ない。こういった世の中の事象は離職者職業訓練を行っている場合にも形を変えて感じることもある。彼らは革手袋を付けてする溶接作業に慣れ、手仕上げ工作といった素手でしなければいけない作業でも、手が汚れる等の理由から平気で手袋を着用している。例えば、金属加工の実習でCクランプを作成するときに、センターポンチを使って鋼板に打刻する場面がある。その際にこともあろうか溶接用皮手袋を着用したまま行う訓練生がいた。その動作をいぶかしがる私に「ハンマーで手を叩くと痛いから」との答えが返ってきたのには呆れてしまった。そこで「それじゃあ、汚いからといって手袋をしてトイレをするのか!？」と、私は大きな声で言い返してしまった。

ものづくりの中で一番大切な要素は製造経験から生まれた技能者の知恵に加えて、手に備わっている微妙な感覚的能力を高めることであり、そのセンサを研ぎ澄ませれば10ミクロン単位の凹凸を、手触りや素材の持つ色艶、あるいは鏡面に写った室内景色の歪みから見つけ出すことができると、ある機械加工の職人から聞いたことがある。なるほど、そのような千分の数mmといった神の領域近くは別としても、自動車塗装の下地であるパテ塗りの凹凸は、タバコのセロファン上から指でなぞった感触で判断するともいう。また職種が変わって金融関係者は、偽造紙幣に接した際に、紙質や印刷の反射、または微かな凹凸としたインクの厚みに「ん！これは妙だ？」

と見破るといふ。

このような能力は、仕事に精通している手に植え込まれたセンサが、同類のものと比較識別できることを脳に伝え、その経験値から判断を下すと思われる。これらのことは仕事から学んだ経験を手先が覚えこみ、その感覚が研ぎ澄まされ、さらにはそれまで習得した経験が総合的に組み立てられて、日本が世界に誇る精密なものづくり技能を支えているといえよう。

Cクランプ製作の一連の流れを見ると、罫書き、打刻、穿孔、鋸切断、タップ立て、ヤスリ掛け、キサゲといった手仕上げ工作は、工具類から伝わる微妙な感覚を手のひらが感じたものに、脳が指令を発して精度の高い仕事につながっているのである。それが、こともあろうか手が痛いからとは屁理屈も大概にせよ！と憤慨してしまった。ものづくりの現場には上記のような「口答え」は存在しなかったため、私はため息をついてしまった。

そこで、一般の方にもわかりやすいように手仕上げ作業の一部を写實的に述べるなら、センターポンチを打つ場合には作業に応じた工具を選び、指先から冷やっと感じる感触が緊張感となって脳に伝わり、刃先の確かさに加えて金属の持つ冷酷で強靱な性質をその質量から感じつつ、光の加減を参考にして罫書き線の上にポンチ先端を合わせ、利き腕に片手ハンマーを軽く握って、息を止めた後に刃先を見つめて打ったときの、母材にすっと食い込む軽い手応えを“楽しむ”ものだ。そして適度な大きさのポンチ痕が罫書き線のど真ん中に収まったときの達成感、皮手袋などを着用した動作からは決して生まれはしないのだ。この五感のうちで、特に手の感触を

大切にすることがものづくりに通じているからこそ、ガス溶接作業を習う前にも素手で吹管バルブの開閉操作をさせている。それは、バルブの感触を指先が十分に覚えこんだ後でない、逆火や逆流した非常時にバルブ操作が一瞬でも遅れると災害につながることに他ならない。

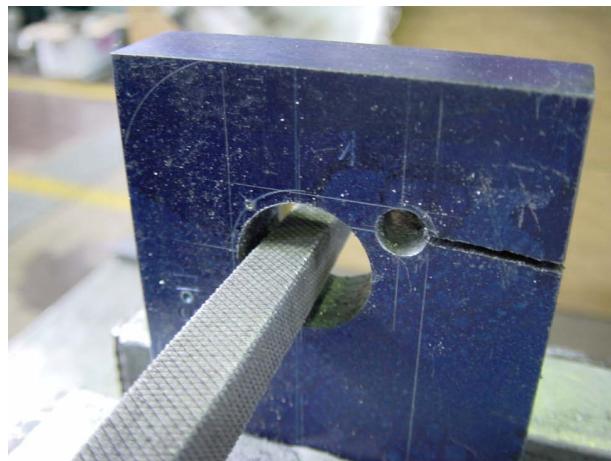
一方で、金属加工以外に目をやれば、手は不思議なパワーと優しさを持っているといえよう。例えば、人が人と接するのは握手でもわかるように手の温もりから始まるのであり、老人を介護するときも優しく手のひらでさする、あるいはなでると老人の笑顔は優しさに包まれた安堵感を見せる。このような場面から、相手の肌に触るのが嫌だからと手袋を着用したまま介護作業を行えば、人間同士の触れ合いはなくなり、介護者としての仕事は成り立たないのではないか。もう随分前の話になるが、私も父親の看病をほんの少し経験したことがあった。その際の

看護する動作に気持ちが込もっていないと、相手は敏感に感じ取るものであり「お座なりでさするのならいらん！」と厳しく叱責されたことがあった。このように手の持つ能力はすばらしく、その感触を技能者として研ぎ澄ませることをゆめゆめ軽んじてはならない。

わが国は品質の良いものを作って世界の国々に輸出して豊かな暮らしが成り立っている。それは、日本製品の信用が命であり、私だけが少々は手を抜いてもいいだろうといった、ものづくりに対する姿勢が緩んだときに改ざんや偽装につながっていき、やがてはそれが形をなして製品の中に残されて、信用を失うという取り返しのつかない事態になるのであると思われる。そうであるからこそ職業訓練は、技能と技術を支える手のすばらしさを再認識して指導しなければいけないと思うのだが、どうだろう。



Cクランプ弓のこ作業



Cクランプヤスリ作業